

いいえがお
やさしいえがお
あふれている
—福祉標語入選作品から—

笠間市社協 宍戸支部だより

第117号

平成29年3月15日発行

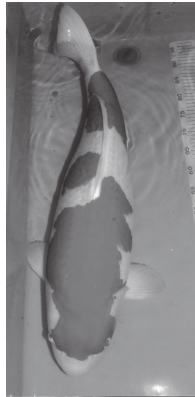
発行 笠間市社協宍戸支部長 伊東 勝男
編集 宍戸支部広報委員会
印刷 大塩企画

たすねてみたら

No.92

錦鯉の美を 探求して

富田道夫さん
大古山



▲紅白7才体長84cm

錦鯉との出会いは四十五年前、またま友人と釣堀で釣った魚を家に持ち帰り小さな池に入れると、その中に錦鯉がいました。見ているうちにその美しさに感動したのがきっかけでした。

錦鯉発祥の地は新潟県の山古志村であることを知り、初めてそこを訪れたのは昭和五十年の秋のことです。妻が隣で地図に見入り長いトンネルを抜けるまで先人達の峠越えの厳しさを目の当たりにしたことを覚えています。

当時は高速もなく八時間以上掛かりました。今では小千谷インターまで三時間半で着きます。

鯉を飼育するのに大変なことは、毎朝、糞抜きと称して底水を排水す

—錦鯉を飼うに至る迄をお聞かせ下さい。

錦鯉との出会いは四十五年前、またま友人と釣堀で釣った魚を家に持ち帰り小さな池に入れると、その中に錦鯉がいました。見ているうちにその美しさに感動したのがきっかけでした。

錦鯉発祥の地は新潟県の山古志村であることを知り、初めてそこを訪れたのは昭和五十年の秋のことです。妻が隣で地図に見入り長いトンネルを抜けるまで先人達の峠越えの厳しさを目の当たりにしたことを覚えています。

当時は高速もなく八時間以上掛かりました。今では小千谷インターまで三時間半で着きます。

鯉を飼育するのに大変なことは、毎朝、糞抜きと称して底水を排水す

地域の人とのふれあいもあり一番人気 自然観察会

日本最古の総合大学を見学

小春日和となった十一月十八日支部で一番人気の「自然観察会」が行われ、抽選に当選した四十五人が、栃木市にある「蔵の街」や足利市の鑑阿寺・史跡足利学校をガイドさん付きで訪ねた。蔵の街は、宿場町・巴波川の舟運として栄え、街道沿いには、白黒の重厚な土蔵群が残る。巴波川の清流には鯉が放たれ、独特の風情を感じさせる。またの名を「鯉の街」とも言うらしい。

鑑阿寺は室町幕府を興した足利氏の居館跡で街の中心にあり「大日さま」として親しまれている。正面の大御堂は初代將軍足利尊氏の父貞氏が一二九九年に再建したもので国宝に指定されている。境内



▲ガイドさんの説明を聞く 足利学校で

あつたとのこと。

今でも毎年十一月二十三日に釋奠（孔子とその弟子をまつる儀式）が行われている。

参加者の皆さんは、ガイドさんの説明を耳をすませて聞いていた。

その感想からは、蔵の街・鑑阿寺・足利学校等の歴史を学べたことや地域の人たちとふれあえたことなど楽しい一日であったことが伺えた。

笑いで 心と身体を健康に

一月十八日ししどサロン（高齢者が近隣の人と楽しく過ごす会）が中町会館で行われた。

この会館には観音様が安置されていて、高齢者が集う時は必ず線香を手向ける。香が漂う中参加者の多くが手を合わせた。

この日の該当者は三十一人で、そのうち二十一人が参加し、サロンへの関心の高さが感じられた。

錦鯉を飼うに至る迄をお聞かせ下さい。

—美しい錦鯉とは。

品評会の審査は、一に体形、二に資質、三に斑紋と言われ、均整のとれた体形が望まれます。品評会に通用するような鯉にするには、良質の餌を腹十二分に与え、十分に運動出来るような環境が必要です。

—これからは。

泳ぐ宝石と言われる錦鯉のマニアとしての夢は、全日本錦鯉品評会で自分で飼育した鯉が国魚賞を取ることです。

錦鯉に魅せられて、懲りずに未だ美の探求に邁進しております。

北茨城で親睦深める 女性部



▲海のそばの神社に参拝

十月二十一日茨城県天心記念五浦美術館に、参加者三十七人で視察研修が実施された。予定通り出発、あいさつを交わり、和やかな雰

ぼけない小唄

風邪をひかずに 転ばずに
笑い忘れず よくしゃべり
頭と足腰 使う人
元気ある人 ぼけません

年をとっても 趣味がある
笑いヨガして ワッハッハッ
笑顔あるから 味もある
いきがいある人 ぼけません



▲「ホッホッハッハッハッ」の呼吸で

中でも最高齢102歳の安田たかさんが、少し遅れて来たものの、元気な顔を最後まで見せてくれた。

出し物は、笑いヨガ（喜田ひろこさん岩間在住）・バルーンアート（小菅栄子さん）・宍戸の歴史講話（南秀利先生）・ビンゴゲーム等、終始楽しい時間を過ごした。

笑いヨガとは笑いの健康体操でインドの医者が始め、内臓を強くし免疫力が高まるとのこと。

喜田さんは背が高く細めの身体は柔軟で、素早い動きでお年寄りの手を取り巧みな語りで笑わせた。

「もう年だから」はいらない。

「ホッホッハッハッハッ」の呼吸法で身体を動かし「いつも感謝の心を持って」と話す喜田さんからは、何か大切なものをもらえた

ように思えた。最後に「ぼけない小唄」を披露し、「お座敷小唄」のふしで皆で歌った。

昼食後、南秀利先生からは、今でも残る四百年前の「お岩稲荷」の話等、明治期に至るまでの宍戸の歴史を学んだ。その中で、当時常盤線が宍戸駅を通る話があったが、反対の声があり実現出来なかったとのことに、参加者の多くがため息まじりの声をあげた。

ビンゴゲームでは、耳を澄ませて番号を聞き、全員が賞品を得た。終了時間を大分越えたが、最後は小菅栄子さんによるバルーンアートで、動物やいろいろな物づくりを楽しんだ。

困りで現地に到着する。

県北芸術祭の会場になっており、美術館も通常展示ではなく、ウルトラテクノロジスト集団、チームラボによる現代アートが、ハイテク技術を駆使してくり広げられていた。美しくふしぎな映像の空間を体験、さらにそれらが進化していくと聞き驚きであった。

美味しい昼食に満足、野口雨情館も見学出来、盛りだくさんの内容に、帰路の車中、参加者の方から楽しかった事、又作品の展示にも満足と好評であった。次回研修に期待も高まっていた。

思いやる気持ちの結集 新年 お楽しみ配食

ひとり暮らしの高齢者を対象にした新年お楽しみ配食が、一月十九日に行われた。

一月のみの配食希望者と合わせて七十一人が、新年お楽しみ弁当を受けた。

女性部当番は二班（小人町・矢野下・大古山・下加賀田）の皆さん。前日は午後から、当日は八時半からと二日間に渡ってお正月料理に腕をふるった。

穴戸塾ホタルの里委員会の皆さんが北山の田んぼで作ったもち米が、二十八年度も豊作であった。もち米は赤飯として主役を果たした。

色彩りも栄養バランスもよい



▲心のこもった年賀弁当



▲どうぞお召し上がり下さい。

十二品が詰まったおいしいそうなお正月弁当が出来上がった。

お弁当はこぶしの会メンバーがひとり暮らし高齢者宅を訪れ手渡した。お年寄りの「ありがとうございます」の言葉に、温かい気持ちに満たされたのか、こぶしの会メンバーに笑みがこぼれた。

第30回 GROUND GOLF 交流の輪広がる

表彰者（敬称略）

☆男性の部

1位	関 昇	橋爪2区	32点
2位	雨谷 高市	旧陣屋2区	39点
3位	渡辺 武行	八反山	41点

☆女性の部

1位	中村みとり	大田町2	40点
2位	須藤 み奈	大田町2	41点
3位	宮田 久恵	松山南団地	43点

ホールインワン 女性10人 男性6人



▲上位表彰者

十月二十四日北山グラウンドで第三十回グラウンドゴルフ大会が開催された。今回から団体の部を廃し、個人の部のみとなった。

支部長は、あいさつの中で個人戦にしたことにより新たな出会いと、交流の輪が広がることをあげ、高齢者のいっそを上げた。

女性の部では、選手最高齢の須藤み奈さん（大田町二九六歳）が堂々の二位となり、多くの人が驚くと共に賞讃の声を上げた。

参加選手九十二人は秋晴れの中、日頃の練習の成果を発揮した。

うの社会参加を促した。

まちの声・むらの声



南小泉1 角田康博

三世代ふれあいの集いを思う

十一月五日三世代ふれあいの集いが穴戸小学校で行われました。前半は児童主体で、吹奏楽部の演奏、各学年の発表、縦割り班による体験活動がありました。いずれも創意工夫と努力が感じられる仕上がりでした。縦割り班による体験活動は、担当コーナールの自発的なアピールや高学年児童が低学年児童を世話する様子も見受けられる等成長を感じることが出来ました。

後半はPTA主体の会食でした。以前はお雑煮でしたが、今回からお赤飯とけんちん汁です。お赤飯は児童が田植えをしたもち米を使い、けんちん汁は地域の方々からいただいた野菜を保護者の方々が学年ごとに調理してくれました。他の学年に負けまいと味付けにこだわり、冗談が飛び交う等楽しく調理出来た様子で、楽しく美味しくいただきました。

今回PTA役員として計画から携わり、改めて意義と保護者、地域の方々のご支援とご協力の有り難さを感じました。会食内容の更、それに伴う材料・調理器具の手配、調理に関するアドバイス等、皆様のご協力により、大きな問題もなく無事に終えることが出来ました。

今後、時代の流れに伴い、内容の変更が多々必要になると思われませんが、変わらぬご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

（穴戸小PTA副会長）



▲輪投げで遊ぶ三世代

早寝・早起きで健康維持

旧陣屋二区 森田和美

「ネムレタゲ？」高齢者になると気になる言葉であるが、健康維持には睡眠が大事である事は誰もが認識していると思われる。

昨年の八月に、旧陣屋コミュニティセンターにおいて、こころの医療センターの土井永史院長による睡眠についての特別講話を受講して健康と睡眠についての因果関係を学ぶ事が出来た。

特に健康の三要素は「栄養・運動・休養」であるが、近年脳の休養である「睡眠」が阻害されると生活習慣病発症につながると言われている。更には、日常の「笑顔」が脳へ刺激を与え活性化に効果があるとの記憶が蘇ってきた。人生の三分の一の時間を占める睡眠は決して無駄な時間ではない。それは、生命維持、成長、心身の健康維持には質の良い睡眠が欠かせない事を痛感し自分なりに結論に達した。

先人の知恵で「早起きは三文の得」とありますが、これからは早寝・早起きに心がけ健康維持に努め、地域の一員として地域の人たちと協力し支え合って残りの人生を楽しみながら歩んでいきたいと願っているところである。

（穴戸地区区長会長）



旧陣屋2区 森田愛里

穴戸小最後の思い出

私にとって三世代ふれあいの集いは今年で最後です。私はこの三世代ふれあいの集いを絶対成功させようとのぞみました。

「今年の三世代も、すごく楽しかったなあ」と思ってもらえるような三世代にするために私たちは、協力し合いながらみんなが楽しめる三世代にしていきました。

私たち六年生の学年発表では三世代に関するもので、昔から今の歌や有名な人などがどういう変化をしているのかを調べて発表しました。



▲面白おかしく話す土井院長

のです。私たちが何をやるのか、どういうことを言うのかをみんなが考えました。私たちは、どんなことがあっても「三世代を絶対に成功させる。」という強い気持ちがありました。その気持ちを忘れず、三世代ふれあいの集いでは私たちみんなが「今年の三世代、大成功した！」と思っています。

（小六）

ありがとうございます

十二月十一日旧陣屋レクリエーションクラブによる「チャリティーそば会」が、旧陣屋コミュニティセンターで行われた。地域を問わず、子どもから高齢者までおいしいおそばがいただけるとあって、終始多くの人でにぎわった。

調理から接待まで、総て男性が行っているというこの会から、支部社協に一万円の寄付があった。

顕彰2人

二月二十六日第六回笠間市社会福祉大会が友部公民館で開催された。

大会に於いて穴戸支部から桑野郭延さん（八反山）と山本弘子さん（大田町二）が、多年にわたり支部の福祉活動に貢献されたことにより笠間市社会福祉協議会長から表彰を受けた。

まちをきれいに



▲親子でクリーン作戦に参加 11月27日